

## お釈迦様ものがたり

## ——少年のころのお話



ルンビニー園でお生まれに

お釈迦様がお生まれになったのは、今から二千五百年も昔、紀元前五〇〇年ごろのことです。ヒマラヤ山脈の麓、今のネパール国にあった小国の王子として生まれました。

父は淨飯王、母は摩耶夫人といいます。摩耶夫人は、お産のため実家に帰る途中、ルンビニー園で休まりました。美しい花に手を伸ばされたとき、急に産気づき、玉のような男の子が生まれました。生まれ落ちると同時に七歩歩いて、右手を上左手を下に、「天上天下、唯我独尊」と宣言されたといわれます。四月八日の花まつりにおまつりするお釈迦様は、そのときの姿をあらわしています。

瞬く間に失われた小さな命

ところが、摩耶夫人は出産して七日目に亡くなり、叔母の手で育てられま

した。王子は幼いころから感受性豊かな性格でした。

父王とともに農耕祭に参列したときのことです。農夫の鎌に掘り起こされた土から、小さな虫が現れました。すると小鳥が飛んできて、虫をくわえていきました。ところがその小鳥も、上空から襲いかかったワシに食べられてしまいました。王子は、小さな命が次々と失われていくさまに、心を痛められたといえます。

「四門出遊」のお話

王子は時々お供を連れてお城の外へ出かけました。ある日、東の門から出

て行くと、前から腰の曲がったみくい老人が、杖を頼りに歩いてくるのに出会いました。「あれは何か？」と王子が尋ねると、お供の者が「老人でございます。人は誰でもいつかはあのような姿になるのでございます」。昔殺老人を見かけることがなかった王子は、やがて自分もあなるという説明にショックを受けられました。

またある日、南の門から出ると、青白い顔を引きつらせ、もがき苦しむ者の姿が目に入りました。王子の質問に「病人でございます。人は誰でも病人にかかります」。その説明を聞いて、王子の心は沈んでいきました。

またある日、西の門から出ると、棺をかつき泣きながら歩いていく行列に出会いました。「葬式でございます。人は誰でもやがては死んでいくものです」。この言葉は、王子の心に深く突き刺さりました。

またある日、北の門から出たとき、すがすがしい人が歩いてくるのに出会いました。「あれは沙門<sup>シャモン</sup>と云って、ゆるぎない心の安らぎと悟りを求めて修行している人です」。このとき王子の心に、沙門への憧れ、出家への関心が生まれたといわれます。

やがて、王子は二十九歳のとき出家されますが、その話は次回にさせていただきます。乞う、ご期待！

## 歯ブラシは

## 道元禪師が伝えた？

禅宗の生活規律・修行の方法・心構えなどを決めたものを「清規」と言います。道元禪師の著書「正法眼蔵」のなかに「洗面」という項目があり、歯ブラシの使い方を書いていねいに指導されています。道元禪師は、悟りを実践する場として、生活の「一つひとつ」の大切さを教えられているのです。

## 眼をすえて、死に習う他なし

宮松山

臨南寺任職

渡邊剛毅



これは当山にもゆかりの深い禪者・鈴木正三師の言葉です。「仁王禪」を唱えた鈴木正三師は、臨南寺を開いた鈴木重成の実兄で、曹洞宗の中でも一目置かれる存在です。「死に習う」というのは、いつも死を見つめて生きているということでしょう。そして、生かされている自分を知り、やがて死んでいく自分を感じながら生きていくということでしょう。

死は誰のもとにもやってきます。どんなにお金持ちでも、どんなに高貴の生まれでも逃れることはできません。私たちは、自分だけはすぐに死ぬはずはないと思ひ込んでいま

す。しかし、人生は自分で思っているほど長くありません。死はある日突然やってきます。そのとき慌てても遅いのです。

今日という日を大切にすること。自分の一日だけでなく、他人の一日も大切にすること。自分に誠実に、他人に思いやりを持って、いつ死んでも悔いのないように生きること。それが「死に習う」ことではないでしょうか。 合掌

坐禅のあとは書初めの練習だ

### 冬休み親子坐禅会

十二月二十二日(日)

冬休みの臨南寺の恒例行事となった「冬休み親子坐禅会」。今回もたくさんの方の参加がありました。坐禅で静かな時間を持ったあとは、「羊」の書初めに挑戦。お母さんやお父さんも習字教室を楽しみました。



### 恒例の弁天様祈禱会

一月十五日(水)

今年も正月十五日、厄を払い福を招く弁天様祈禱会が開かれました。お坊様方による「大般若経」の転読が行われたあと、参詣の皆様が無病息災・延命長寿を祈念してお加持が修され、恒例の甘酒がふるまわれました。

## 臨南寺 行事予定

### 彼岸会

三月二十四日(月) 午後一時～三時  
亡くなられた方にお経をあげ、先祖供養の法要を行います。

### お彼岸写経会

三月十八日(火)～二十日(日)  
お写経は、お釈迦様生誕の地ネパール・ルンビニー仏教寺院にお納めいたします。

### 春休み親子坐禅会

四月六日(日) 午後一時～三時  
無料(要予約)

坐禅のあとのお楽しみに、TVゲームなどいろいろなゲームをご用意しています。春休みの思い出づくりに、お友達を誘い合わせてご参加ください。

### マトリ合同法要「若菜祭」

五月十一日(日) 午後一時～  
読経や焼香、法話など、法要を機に皆様の親交を深めていただきます。マトリ申込者でない方も参加していただけます。

TVゲームで遊べるよ!





心休まる憩いのひととき

## 私だけの「ほっと」タイム

人それぞれに思う「ほっと」する時間や場所。さて、読者の万が一に備えたのは、どんなひとときを過ごしたいか。

### 穏やかな日々には「ほっと」

五十余年の勤めを終え、家内とはほっとし毎日を選べる幸せ。朝夕の読書で感謝のほっとと。早く死別した父母と育つての母の棲家であるお墓で、心の対話をした後のほっととは格別です。

福住 賢さん 80代 無職

### 朝の仕事が片付いて「ほっと」

朝食の後始末をし、洗濯物を干し、犬のお散歩が終わり特に冬の朝は雪ん子のように頬と鼻の頭を真っ赤にして帰ってきて、温かいリビングに温かいコーヒーがあれば最高といったころかな。

田中 翠さん 40代 無職

### 読書しながら「ほっと」

仏教関係の本をよく読みます。特に岩波文庫の「通元」に熱中しています。お生まれから、中国への渡来、水平寺での厳しい修行まで、導師の生涯が克明に記されています。私も「浄土日水平寺で半禅修行させていただきました」。

大槻 芳男さん 70代 無職

## あなたの

## ほっとタイム

大募集

あなたの「ほっと」する時間や場所をお知らせください。ほかほかの「ほっと」タイムを募集しています。採用分には相済みません。



11月10日(日)

### 特別万灯祭奉納コンサート

アルゼンチン大使館、大阪市などの後援により「特別万灯祭奉納コンサート」が、昨年十一月十日臨南寺で開かれました。エンリケ・クッテイーニ楽団の協力を得て実現した、



## お気軽にどうぞ

坐禅会  
毎月二十日 午前十時～午後二時  
献香料(お志)

早期坐禅会  
第一土曜日 午前六時三十分～

写経会  
毎月二十日 午前十時～午後四時  
写経料(納経料を含む)／二〇〇〇円

子ども空手教室  
毎週木曜日 午後七時～九時  
一か月／六〇〇〇円

書道教室  
第二木曜日 午前十時～  
第四木曜日 午後一時～  
一回／二五〇〇円

絵手紙教室  
第二木曜日 午後一時～  
第四木曜日 午前十時～  
一回／二五〇〇円

実用ペン習字教室  
第一日曜日 午後二時～四時  
一回／一〇〇〇円(材料費別)

※いずれも事前のお申込みが必要です。講師/岩木千寿

本場の情熱的なアルゼンチンタンゴショー。熱気あふれるステージで、多くの観客を魅了しました。同時に開催された物産展も賑わい、収益金は、アルゼンチンの子どもたちの教育・職業訓練に力を注いでいる「フエリチエス・ロス・ニニョス財団」

に寄付されました。

また、夜は、道元禪師七百五十回大遠忌・萬安英種禪師三百五十回大遠忌を祈念して、お盆の恒例行事「万灯祭」を特別開催。揺らめく炎で本堂が夜空のなかに幻想的に浮かびあがりました。

お気軽に  
ご休憩ください

### 墓苑事務所



墓苑事務所が従来より広くご利用いただけるようになりました。お墓参りのお帰りに、皆様のご休憩場所としてご利用いただければ幸いです。念珠やお線香など、臨南寺オリジナル商品も販売しております。お気軽にお立ち寄りください。

「ほっと」8号

平成15年2月

編集・発行：鏡御林「ほっと」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長谷園1-32

TEL 0120-711-493

TEL 06-6698-1001 FAX 06-6697-3330

Eメール: zinnin@bahammocn.jp

ホームページ: <http://www.zinnin.com>

◎◎◎◎◎

ようやく「ほっと8号」を送り出すことができほっとしております。今号から特集をシリーズ化しました。読者の感想をお寄せください。「私のほっとする時」同様、採用分には商品を送らせていただきます。文章の量は関係ありません。どうぞお気軽に編集室にお送りください。FAXでも結構です。